

人口増減

(1) 人口増減の機能と目的

人口増減では、都道府県・市区町村単位で、人口増減率*1（5年間）をヒートマップ上で把握することができます。

また、時系列で人口増減率、出生数・死亡数／転入*2数・転出*3数の推移、人口の自然増減・社会増減数の推移を把握することで、人口増減の要因を分析することができます。



出典

- 人口増減率（都道府県）
総務省「国勢調査」（1965～2020年（5年））
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（2025～2045年（5年））
- 人口増減率（市区町村）
総務省「国勢調査」（1985～2020年（5年））
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（2025～2045年（5年））



参照

- 人口増減の画面の表示方法については、「基本的な使い方」を参照

*1: 人口増減率 = (A - B) / B

A: 「表示年を指定する」で指定した年の人口

B: Aの5年前の人口

*2: 「転入」とは、別の地域からある地域に住民票を移すことをいう。

*3: 「転出」とは、ある地域から別の地域に住民票を移すことをいう。



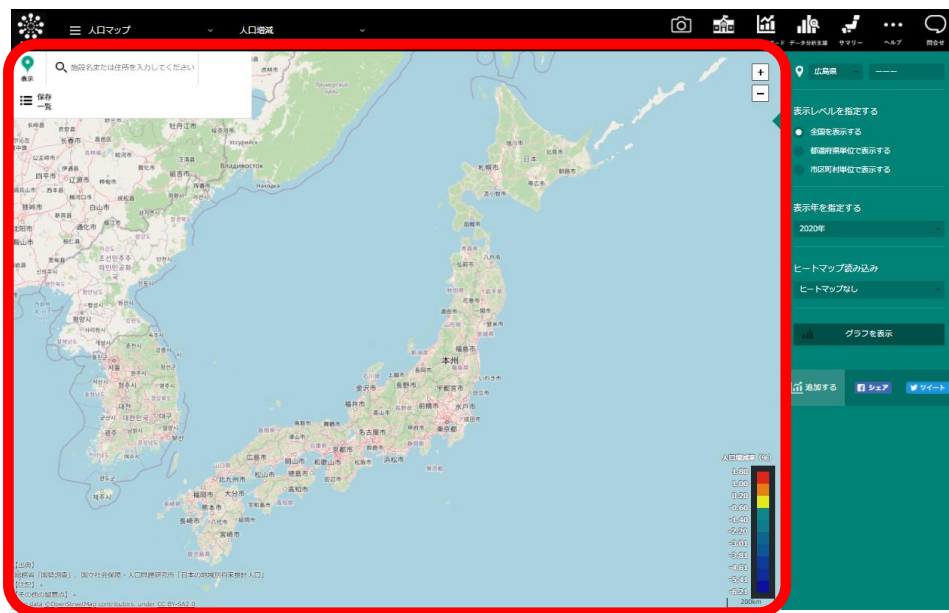
(2) 人口増減の表示内容

● 人口増減

人口増減ヒートマップでは、ヒートマップ読み込みで指定した透過率によって、表示年で指定した年における5年前の人口からの人口増減率が表示されます。

「全国を表示する」を選択すると、日本全国の地図が表示されます。「都道府県単位で表示する」を選択すると、「指定地域」で選択している都道府県を中心とした縮尺で地図が拡大表示されます。「市区町村単位で表示する」を選択すると、「指定地域」で選択している市区町村を中心とした縮尺で地図が拡大表示されます。また、「全国を表示する」あるいは「都道府県単位で表示する」選択時のヒートマップは都道府県単位、「市区町村単位で表示する」選択時のヒートマップは市区町村単位で表示されます。

※初期表示項目：全国を表示する、2020年、ヒートマップなし



出典

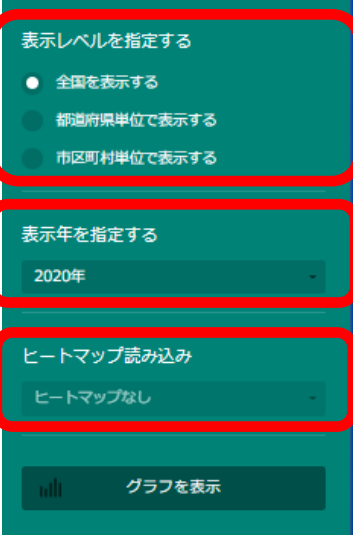


- ・ 人口増減率（都道府県）
総務省「国勢調査」（1965～2020年（5年））
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（2025～2045年（5年））
- ・ 人口増減率（市区町村）
総務省「国勢調査」（1985～2020年（5年））
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（2025～2045年（5年））

(3) 右メニューの説明

右メニューでは、左のマップの表示内容について設定します。

また、指定地域の関係データの図表に切り替えるボタンが表示されます。



- **表示レベルを指定する**
 - **全国を表示する**
日本全体のマップを表示し、人口増減率を都道府県単位で表示する場合に指定します。
 - **都道府県単位で表示する**
人口増減率を、都道府県単位で表示する場合に指定します。
 - **市区町村単位で表示する**
人口増減率を、市区町村単位で表示する場合に指定します。
- **表示年を指定する**
表示年を選択します。
- **ヒートマップ読み込み**
クリックすると、ヒートマップなしまたは、ヒートマップの透過率に応じたヒートマップを画面に読み込みます。
 - ヒートマップなし
 - 透過率 50% (薄いヒートマップ)
 - 透過率 80% (濃いヒートマップ)

表示レベルを指定する

- 全国を表示する
- 都道府県単位で表示する
- 市区町村単位で表示する

表示年を指定する

2020年

ヒートマップ読み込み

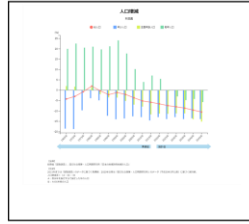
ヒートマップなし

グラフを表示

● グラフを表示

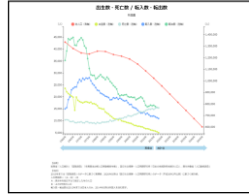
クリックすると、以下のグラフが表示されます。

- 人口増減率の推移の折れ線グラフ



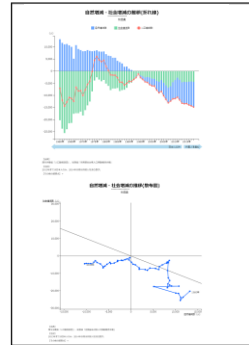
人口増減率の折れ線グラフについての詳細は、(4)を参照

- 出生数・死亡数／転入数・転出数の推移の折れ線グラフ



出生数・死亡数／転入数・転出数の折れ線グラフについての詳細は、(4)を参照

- 自然増減と社会増減の推移のグラフ、散布図



自然増減と社会増減のグラフ・散布図についての詳細は、(4)を参照

(4) 人口増減関係データを図表で見る

■人口増減

人口増減率の折れ線グラフと、年少人口／生産年齢人口／老年人口それぞれの増減率の内訳(寄与度)の集合棒グラフです。

■出生数・死亡数／転入数・転出数

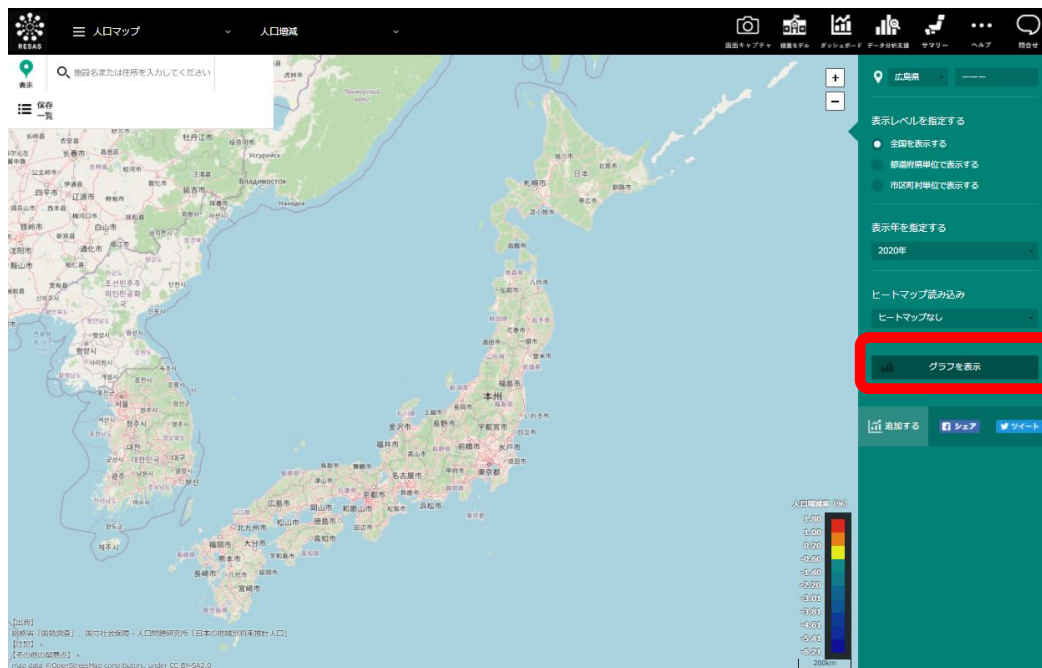
出生数・死亡数／転入数・転出数の推移の折れ線グラフです。

■自然増減と社会増減の推移

人口増減率の折れ線グラフと、それに対する自然増減と社会増減の積み上げ棒グラフと散布図*4です。

<人口増減関係データの図表の表示方法>

右メニューの「グラフを表示」をクリックします。



➡ 人口増減関係データの図表が表示されます。

*4: 「散布図」とは、横軸と縦軸にそれぞれ別の量を取り、データが当てはまる場所に点を打って示すグラフのこと。2つの量に関係があるかどうかを見るのに使われる。

<表示されるグラフの種類>

下方向へスクロールすると、続けてグラフが表示されます。

「指定地域」で指定している地域に、他の自治体を合算した形で、人口増減率、人口推移を確認することもできます。合算は、最大で30地域まで選択できます。



参照

- グラフに他の自治体を合算する方法の詳細については、「基本的な使い方」を参照



注意

- 合算機能において秘匿値が含まれる地域を合算した場合、当該地域の数値は合算結果に反映されません。

■人口増減

人口増減率の折れ線グラフと、老年人口／生産年齢人口／年少人口それぞれの増減率の内訳（寄与度）の集合棒グラフです。都道府県単位の場合は1965～2045年の期間の5年刻み、市区町村単位の場合は1985～2045年の期間の5年刻みで表示されます。

積み上げ棒グラフにマウスオーバーすると、該当する年の総人口／老年人口／生産年齢人口／年少人口の寄与度の割合が表示されます。

※2020年以前は実績値、2025年以降は推計値です。



● データをダウンロード

クリックすると、人口増減、出生数・死亡数／転入数・転出数、自然増減と社会増減の推移の各データ（CSV）が都道府県別・市区町村別に総人口データとともにダウンロードされます。

出典



- 人口増減（都道府県）
総務省「国勢調査」（1965～2020年（5年））
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（2025～2045年（5年））
- 人口増減（市区町村）
総務省「国勢調査」（1985～2020年（5年））
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（2025～2045年（5年））



注意

- 「指定地域」の「都道府県」で「福島県」を選択し、表示する地域の単位を市区町村にしている場合、2025年以降の折れ線グラフ及び積み上げ棒グラフは表示されません。福島県については、国立社会保障・人口問題研究所における2025年以降の推計が、都道府県単位でのみ行われているためです。



RESAS

RESAS
地域経済分析システム

人口増減

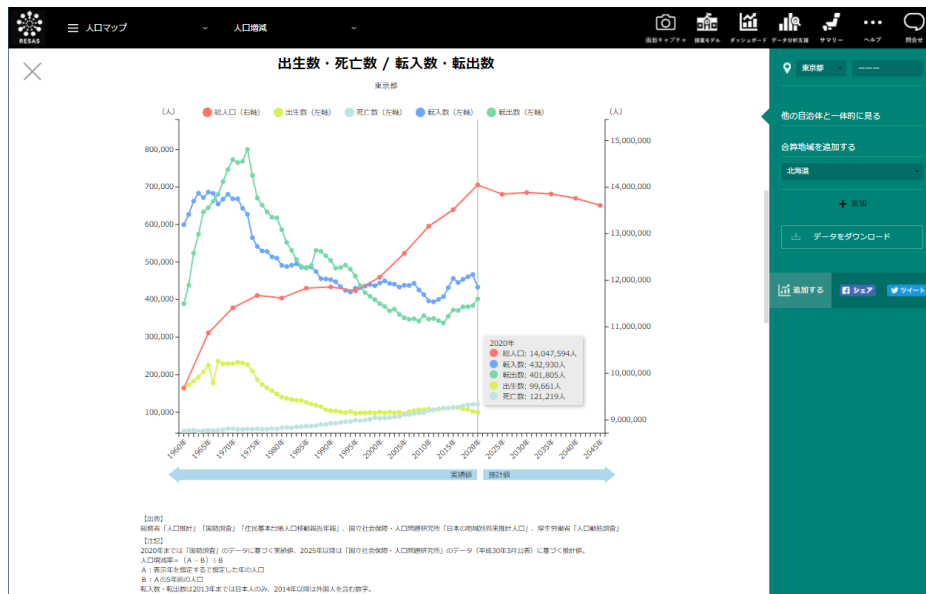
■出生数・死亡数／転入数・転出数

総人口・出生数・死亡数／転入数・転出数の推移の折れ線グラフです。都道府県単位の場合は1960～2020年（総人口のみ2045年まで）、市区町村単位の場合は1994～2012年度及び2013～2020年（総人口のみ2045年まで）が表示されます。

総人口は左側の目盛り、それ以外は右側の目盛りが適用されます。

折れ線グラフと表示年（横軸）が交差する位置にマウスオーバーすると、該当する「年」と「人数」が表示されます。

※2025年以降の総人口は推計値、それ以外はすべて実績値です。



出典

- 総人口（都道府県）
総務省「国勢調査」（1960～2020年（5年））
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（2025～2045年（5年））
- 出生数・死亡数／転入数・転出数（都道府県）
厚生労働省「人口動態調査」（1960～2020年（1年））
総務省「住民基本台帳人口移動報告」（1960～2020年（1年））
- 総人口（市区町村）
総務省「国勢調査」（1995～2020年（5年））
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（2025～2045年（5年））
- 出生数・死亡数／転入数・転出数（市区町村）
総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」（1994～2012年度、2013～2020年（1年））

注意

- 「指定地域」の「都道府県」で「福島県」を選択し、表示する地域の単位を市区町村にしている場合、2025年以降の折れ線グラフ・棒グラフは表示されません。福島県については、国立社会保障・人口問題研究所における2025年以降の推計が、都道府県単位でのみ行われているためです。
- 「都道府県単位で表示する」を選択している場合、転入数・転出数は2013年までは日本人のみ、2014年以降は外国人を含む数字です。
- 「市区町村単位で表示する」を選択している場合、出生数・死亡数／転入数・転出数は2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字です。
- 本グラフについては他地域を合算することはできません。



■自然増減・社会増減の推移（折れ線）

人口増減数の推移の折れ線グラフと、自然増減数（出生数－死亡数）と社会増減数（転入数－転出数）の積み上げ棒グラフです。都道府県単位の場合は1960～2020年、市区町村単位の場合は1994～2012年度、及び2013～2020年が年ごとに表示されます。

積み上げ棒グラフにマウスオーバーすると、該当する「年」、「人口増減数」、「社会増減数」、「自然増減数」が表示されます。



出典



- 自然増減と社会増減の推移（都道府県）
厚生労働省「人口動態調査」（1960～2020年（1年））
総務省「住民基本台帳人口移動報告」（1960～2020年（1年））
- 自然増減と社会増減の推移（市区町村）
総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工
（1994～2012年度、2013～2020年（1年））
- 2006年に甲府市と富士河口湖町に分割編入した山梨県上九一色村については、富士河口湖町に統合している。



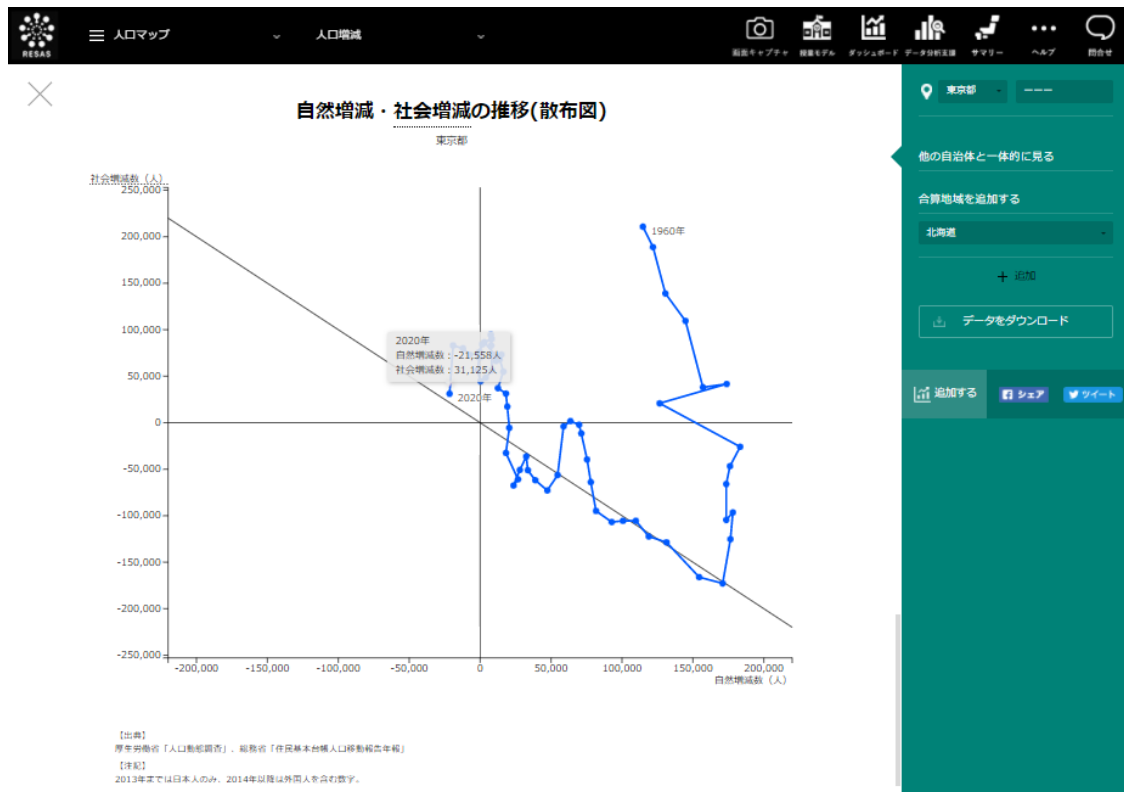
- 「都道府県単位で表示する」を選択している場合、2013年までは日本人のみ、2014年以降は外国人を含む数字です。
- 「市区町村単位で表示する」を選択している場合、2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字です。

■自然増減・社会増減の推移（散布図）

総人口の推移に与えてきた自然増減と社会増減の影響を把握することができます。散布図では、人口の自然増減と社会増減の影響を経年で見るすることができます。

縦軸に自然増減数（出生数－死亡数）、横軸に社会増減数（転入数－転出数）をとり、集計年ごとに点が打たれ、線で結ばれています。

都道府県単位の場合は1960～2020年、市区町村単位の場合は1994～2012年度、及び2013～2020年が年ごとに表示されます。



出典



- ・ 自然増減と社会増減の推移（都道府県）
厚生労働省「人口動態調査」（1960～2020年（1年））
総務省「住民基本台帳人口移動報告」（1960～2020年（1年））
- ・ 自然増減と社会増減の推移（市区町村）
総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工
（1994～2012年度、2013～2020年（1年））
- 2006年に甲府市と富士河口湖町に分割編入した山梨県上九一色村については、富士河口湖町に統合している。



- ・ 「都道府県単位で表示する」を選択している場合、2013年までは日本人のみ、2014年以降は外国人を含む数字です。
- ・ 「市区町村単位で表示する」を選択している場合、2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字です。



● 散布図について

散布図は総人口の経年推移の傾向を分析するために役立ちます。以下の図の場合、年ごとの総人口の点が、図中緑色の斜線の上側にあるときは総人口が増加傾向に、下側にあるときは減少傾向にあることがわかります。

また、年ごとの総人口の点が図の4つの象限（グラフの各エリア）のどこにあるかで、人口増減の要因が自然増減によるものか、社会増減によるものかがわかります。

例えば、社会増減の影響が強い左上の象限のうち、図の赤い三角形の面積部分に点が存在する場合は、社会増によって人口が増加していることを示します。

